

2023 年度事業報告書

(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

公益財団法人 東京陸上競技協会

理事長 下山良成

目 次

2023年度事業報告趣旨	2
【委員会、部会報告書】	
総務委員会	4
財務委員会	5
競技運営委員会	6
主要競技会開催状況	8
競技部会	10
記録情報部会	11
審判部会	12
競技場管理部会	14
普及強化委員会	15
マーケティング・企画委員会	24

2023年度公益財団法人東京陸上競技協会の総括

2023年度は5月以降の感染症対策の柔軟化に伴い、大会数・参加者等の増加をはじめとして、t o t oの助成金の倍増や、新規登録の審判員の増加、指導者育成事業を通じた指導者の発掘育成等の活動を通じて、協会の収益は増益に転じました。

2023年度の上期に立案した計画に基づき、公益財団法人東京陸上競技協会としての組織力の強化を図るとともに「一人一人が主人公 魅力ある東京を目指して」の大目標を掲げ、競技者と指導者、保護者、サポーター、審判員の皆さま一人ひとりが、競技会や普及強化活動を通じて、喜びや達成感を分かち合える環境作りをしてまいりました。

主催・主管競技会となる東京選手権・元旦競歩をはじめとして、各代表選手の選考競技会やマラソン等の実施をはじめ、小さなお子さんでも参加できる大会からご高齢の皆さま、障がいを抱えた皆さま誰もが陸上競技を通じて、記録の更新や競い合いを楽しんでいただける競技会や大会等のイベントを行ってまいりました。運営する大会や参加者の増加や、スポンサーの方々からご理解を元としたご協賛もいただき、協会収益も増額に転じました。

また、大会運営と選手指導は中心となる選手や陸上競技愛好家が正しいトレーニング方法やルールを身につける上で大切な条件となります。

今回、競技会を支える皆さまに必要な公認審判員の新規取得者や、選手のサポートする指導者に必要な指導者資格を新規に取得する皆さまも大きく増加に転じました。

◇陸上競技審判員・指導者に必要な資格の取得者数◇

(JAAF公認審判員資格取得者)

新規B級審判取得者	7回	116名
-----------	----	------

(日本スポーツ協会公認指導者資格取得者)

コーチ3 (公認コーチ)	1回	東京陸協推薦者2名
コーチ1 (ジュニアコーチ)	1回	60名
スタートコーチ	5回	90名

また、都道府県対抗競技会の鹿児島特別国体では天皇杯皇后杯とも入賞しました。駅伝競技では東日本女子駅伝では2連覇を果たし、都道府県対抗駅伝では男子8位、女子12位となりました。小学生の都道府県代表大会である小学生交流大会では3名の入賞のうち、2名が優勝を果たしました。

ここ数年、東京代表として小・中・高校と活躍してきた選手が、活躍の場を世界に広げ、オリンピックや世界陸上を始め野役の国際大会で優秀な成績を残すようになってきました。昨年度はワールドユニバーシティの110mハードルで世界一になった選手も輩出されました。

◇都道府県対抗大会及び東京陸上競技協会派遣大会の成績◇

(都道府県対抗大会)

◎鹿児島特別国民大会 天皇杯 (男女総合) 第4位	皇后杯 (女子総合) 第8位
◎第38回東日本女子駅伝大会	第1位 (2連覇)

- ◎皇后盃第42回都道府県対抗女子駅伝競走大会 第12位
- ◎天皇盃第29回都道府県対抗男子駅伝競走大会 第8位
- (派遣大会)
- ◎第39回全国小学生陸上競技交流大会 優勝2名 第3位 1名
- ◎U16都道府県代表リレー 女子チーム 第4位

指導するスタッフについては、新時代を見据え、現場で活躍する方々の力を結集し、実業団・大学・高校・中学・小学生・クラブチームと幅広い指導層の皆さんの協力を頂きました。

現在の課題は、コロナ禍以降伸びていない東京登録者会員の増加があげられます。

陸上競技を支えてくださる、皆さまが増えていくことで、競技会は盛り上がり、東京都の選手が活躍することで、陸上競技のファンも増え、よりイベント性の高い競技運営をすることで、陸上競技を発展に公益財団法人東京陸上競技協会は寄与して行く所存です。

総務業務活動

1. 定款・諸規定の検討

保有自動車借用内規改訂 (2023年10月26日 理事会にて承認)

分掌業務規程 (2023年10月26日 理事会にて承認)

旅費規程 (2023年12月18日 理事会にて承認)

(2024年03月19日 理事会にて承認)

栄章規程 (2024年03月19日 理事会にて承認)

謝金規程 (2024年03月19日 理事会にて承認)

2. 会議・委員会の開催

2023年08月08日 (火)

(1) 今後の活動方針について

(2) 専門委員会での日当の見直しについて

2023年11月10日 (金)

(1) 会議日当の見直しについて

(2) 専門委員会・部会での作業日当の見直しについて

2024年02月16日 (金)

(1) 栄章規程の見直しについて

(2) 謝金規程の見直しについて

管理業務活動

1. 2023年度新規加入・退会累計

	正会員	准会員	准団体	計
2023年度				
2023/1/16 現在	246	171	0	417
新規加入 (1)	0	1		1
新規加入 (2)		3		3
新規加入 (3)	1	6		7
新規加入 (4)	1			1
新規加入 (5)	6	9	11	26
新規加入 (6)			3	3
新規加入 (7)	2	2	4	8
新規加入 (8)			1	1
新規加入 (9)	1			1
新規加入 (10)				0
(小計)	11	21	19	51
退会 (5次)	1			1
退会 (累計)	2	3		5
(合計)	255	189	19	463

2023.11.29

1. 2023 年 6 月税額控除に係わる証明の申請手続きの完了

当法人が本証明書を受ける対象となるのは、3,000 円以上の寄附金納付者が年平均 100 人以上いるとの〈要件 1〉に該当する必要あり、直近 5 年間の寄附者実績について、事前にチェックを受けたうえで電子申告による申請を行うもの。

提出資料

- ・税額控除に係わる証明申請者
- ・2018 年から 2022 年の 5 年間寄附金受入明細書
- ・寄附金規定
- ・決算書類と賛助会員会費額と各事業年度の会費額の相違事由について

報告期限 2023 年 8 月 12 日まで

その結果、令和 5 年 8 月 10 日付け「5 生都管 451 号」にて税額控除に係わる証明書を東京都より発行される。

本証明書に係わる有効期間は、令和 5 年 8 月 10 日から令和 10 年 8 月 9 日まで。

状況：寄附金額については、懸念がないが、前年度の 5 事業年度目は 61 人と平均基準人数を大きく下回った。今年度は前年度より更に下回っており危機的な状況にある。抜本的な対策なくして、5 年後の更新は望めません。

参考 (判定基準寄附者数)

2018 年 141

2019 年 151

2020 年 136

2021 年 79

2022 年 61

年平均数 113

2. 事務局経理サポート

- ・サポート日

5/31 9/14 11/10 11/17 11/24 1/15

漸くコロナ禍も終息した。引き続き、帳票等の点検、整備並びに現金・仮払金の処理の都度確認を行い、勘定科目の適正化をサポートする。

3. 2024 年度講習会募集活動

2/24 武蔵野

3/2 青梅

3/9 港区スポーツセンター

3/10 立正高校

3/31 岩倉高校

委員会・部会実施状況

会議実施状況および議事

<競技運営委員会>

6月21日（水）オンライン会議（Zoom）

- ・陣容・体制
- ・専門部の体制
- ・会議体
- ・競技運営委員会、専門部会専用のメーリングリストや専用メールアドレスを手配
- ・2024年度駒沢競技場の優先予約に関して摺合せ

7月19日（水）オンライン会議（Zoom）

- ・レガシーハーフマラソン・MGCの準備状況について報告
- ・JRWJセミナー受講者の選抜法については審判部で議論の上で報告
- ・4x200mRの実施要領に関して照会あり、回答済み → 基本的な運用は第3走者途中までセパレート、第3走者と第4走者のバトンパスはオープン（ゾーン20m）として運用する
- ・MGC、レガシーハーフマラソン、同車いすハーフマラソンに関し、総務（員）、技術総務、審判長、ブロック長などの主要役員を早急に固め、それぞれの関係団体と打ち合わせを開始する点を確認

8月29日（水）オンライン会議（Zoom）

- ・全国定通制における審判員の言動とその対応について（報告）
- ・「審判活動における服装等の規程」改正について（報告・提案）
- ・JRWJセミナー参加者について
- ・日本学生陸上競技連合からの指摘事項（苦情）

9月27日（火）書面開催（書面開催）

- ・作業日当（新設）に関する調査協力依頼の件（別紙依頼済）
- ・写真判定・スタート連携トラブル（NAGASEカップにおける事案）に関する対応について臨時勉強会（連携確認会議）を企画する。
- ・競技会エントリーシステム及びプロセスの効率化PTについて（進捗説明）
- ・Webサイト見直しについて（進捗説明）
- ・関東学生陸上競技連盟主催大会・加盟校主催大会に際しての運営協力（審判派遣等）法について
- ・日本陸連等との打ち合わせ関係
- ・日本デフ陸上競技選手権の準備に関して
- ・大井競技場の状況について

<その他>

8月 NAGASE カップ対応 関連部長会(8/8)

10月27日（金）オンライン会議（Zoom）

- ・作業日当に関する調査協力依頼の件
- ・写真判定・スタート連携トラブル（NAGASE カップにおける事案）に関する対応
- ・関東学生陸上競技連盟主催大会・加盟校主催大会に際しての運営協力（審判派遣等）法について
- ・MGC, レガシーハーフマラソン（東京マラソン財団）、日本選手権リレー、リレーフェスティバル（日本陸連）、日本選手権 10,000m（日本陸連）、日本デフ陸上競技選手権の準備に関して
- ・鹿児島特別国体派遣報告（競技運営面）/委員長

11月20日（月）オンライン会議（Zoom）

- ・京王駅伝における不芳事案（審判員の誘導ミス）について
- ・全国競技運営責任者会議に出席する日本陸連専門委員会委員およびJTOの東陸審判講習会受講の免除について（決定）。講習会資料代等の費用2,000円は徴収する

12月24日（日）書面開催

- ・【日本陸連】全国競技運営責任者会議(2024/2/12)への出席者について
- ・【日本陸連】スターター研修(2024/2/3)への出席者について
- ・【日本陸連】JRWJ 認定試験に窪田氏（審判部）が合格
- ・JPA（日本パラ陸連）から、3月に予定しているオール陸上の座組について
- ・元旦競技においてペナルティゾーンを設置する（決定）
- ・WA広告規程（2023年12月より施行）

1月30日（火）オンライン会議（Zoom）

- ・競技会関係（前回報告より増えたもの）の共有
- ・競技会エントリーに関する合理化について
- ・競技場管理部会から大井・駒沢両競技場の改修に関する報告・共有
- ・上柚木競技場で4月13日に中学生（多摩地区対象）の競技会を開催（中体連）
- ・競技運営委員会 2024年度活動計画について

2月29日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・春季主催大会の要項について確認
- ・準備工程表の作成について

3月27日（水）書面開催

- ・事業計画および予算に関して
- ・春季競技会の申し込み状況
第16回中学生春季（4/13）1,131名、第17回中学生春季（4/20～21）2,099名
- ・2024年度委員会・部会の運営体制について
- ・5月都高校総体 WRk申請をする。（投てき種目、混成競技、リレーを除く）
- ・6月関東高等学校陸上競技大会 WRk申請をする。（投てき種目、混成競技、リレーを除く）

2023年度 東京陸上競技協会 競技運営委員会 事業報告 (主要競技会)

実施期日	事業名 (競技会名)	実施場所	事業内容
4月8日(土)～9日(日)	第14回 東京都中学生春季陸上競技会 兼 特別国民体育大会東京都代表選手選考会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 2,169 名 審判員 延 290 名
4月8日(土)～9日(日)	第15回 東京都中学生春季陸上競技会 兼 特別国民体育大会東京都代表選手選考会	八王子市上柚木公園陸上競技場	参加者 2,594 名 審判員 延251 名
4月15日(土)～16日(日)	第86回東京陸上競技選手権大会(混成競技・リレー競走)	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	(東京選手権) 参加者 65 名
	第1回 東京陸協競技会兼東京ライジングスター2023(中学棒 高跳・四種競技)兼特別国民体育大会東京都代表選手選考会		(東京陸協競技会) 参加者 336 名 (小学生競技会) 参加者 102 名
	第1回東京陸協小学生競技会		(審判員) 延371名
4月22日(土)～23日(日)	第86回東京陸上競技選手権大会 兼 特別国民体育大会東京都代表選手選考会	国立競技場	(東京選手権) 参加者 539 名 (ライジングスター) 参加者 311 名
	東京ライジングスター陸上 2023		(Spring Challenge) 参加者 86 名
4月22日(土)	TOKYO Spring Challenge 2023		審判員 延512 名
5月3日(水・祝)～4日(木・祝)	第27回ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 2,236 名 審判員 延317 名
5月5日(金・祝)	第86回東京陸上競技選手権大会(ハンマー投) 兼 特別国民体育大会東京都代表選手選考会	都立大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	参加者 8 名 審判員 9 名
5月21日(日)	柴又100k ～東京⇄埼玉⇄茨城の道～	柴又公園(江戸川河川敷)	参加者 1,058 名 審判員 41 名
5月27日(土)～28日(日)	第23回東京都障害者スポーツ大会 陸上競技(知的)	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 514 名 審判員 延131 名
6月3日(土)	第23回東京都障害者スポーツ大会 陸上競技(身体・精神)	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 500 名 審判員 129 名
6月4日(日)	第76回都民体育大会春季陸上競技大会兼 第2回東京陸協小学生競技会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 853 名 審判員 117 名
6月18日(日)	東京トラック&フィールドフェスティバル2023	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 619 名 審判員 111 名
7月15日(土)	特別国民体育大会東京都代表選手選考会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 325 名 審判員 123 名
7月29日(土)	日清食品カップ東京都小学生陸上競技交流大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 786 名 審判員 189 名
8月11日(金)～13日(日)	全国高等学校定時制通信制体育大会陸上競技大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,313 名 審判員 延469名
8月26日(土)～27日(日)	JOC第54回U16陸上競技大会東京都代表選手最終選考会 第35回東京ジュニア陸上競技大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,182 名 審判員 延241 名
9月2日(土)～3日(日)	NAGASE カップ 陸上競技大会	国立競技場	参加者 1,424 名 審判員 延296 名
9月10日(日)	都民生涯スポーツ大会 陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,057 名 審判員 117 名

10月1日(日)	第38回東日本女子駅伝競走大会東京都代表選手選考会2023年度第2回駅伝プロジェクトレース第1回小学生ロングフェスティバル2023	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 140 名 審判員 49名
10月7日(土)～8日(日)	みんなでつなごうリレーフェスティバル2023 第107回日本陸上競技選手権大会 リレー競技	国立競技場	参加者 3,910 名 審判員 275 名
10月9日(月)	2023グリーンリボンランニングフェスティバル	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,735 名 審判員 78 名
10月14日(土)	第100回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～国営昭和記念公園	参加者 727 名
10月15日(日)	マラソングランドチャンピオンシップ 第2回東京レガシーハーフマラソン2023	東京レガシーハーフマラソンコース	参加者 12,388 名 審判員 589 名
10月20日(木)～21日(金)	リボビタン Sports MIDDLE DISTANCE CIRCUIT in Tokyo 2023	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 409 名 審判員 54 名
10月28日(土)～29日(日)	第27回ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 2,917 名 審判員 延295 名
11月3日(金)～5日(日)	2023 World Games of Deaf Athletics Teams兼 第20回記念日本デフ陸上競技選手権大会兼 第3回日本デフU18陸上競技選手権大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 250 名 審判員 延262名
11月11日(日)	京王駅伝フェスティバル2023	味の素スタジアム	参加者 601 チーム 審判員 69 名
11月12日(日)	第18回世田谷24.6ハーフマラソン	世田谷24.6ハーフマラソンコース	参加者 1,870名 審判員 108 名
11月19日(日)	MINATOシティハーフマラソン2023	MINATOシティハーフマラソンコース	参加者 4,982 名 審判員 209 名
11月23日(水)	第28回シニア健康スポーツフェスティバルTOKYO マラソン大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 223 名 審判員 114 名
11月25日(土)	2023年度 第3回駅伝プロジェクトレース	八王子市上柚木公園陸上競技場	参加者 46 名
11月26日(日)	第2回駒沢陸上記録会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 23 名 審判員 23 名
12月3日(日)	第4回東京クロスカントリー	立川・昭和記念公園	参加者 565名 審判員 63名
12月10日(日)	第107回日本陸上競技選手権大会・10000m	国立競技場	参加者 565 名 審判員 81 名
1月1日(月・祝)	第72回元旦競歩大会 兼第86回東京陸上競技選手権大会競歩大会	神宮外苑・絵画館20km競歩路コース	参加者 289 名 審判員 118 名
1月2日(火)～3日(水)	第100回東京箱根間往復大学駅伝競走	大手町読売新聞社前～箱根芦ノ湖駐車場入口	参加者 230 名 審判員 267 名
1月7日(日)	第24回ハイテクハーフマラソン	ハイテクハーフマラソンコース	参加者 8,474 名 審判員 69 名
1月28日(日)	第21回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン	新宿シティハーフマラソンコース	参加者 14,863名 審判員 217 名
2月18日(日)	第56回青梅マラソン	青梅30km	参加者 16,669 名 審判員 291 名
2月23日(金・祝)	第77回都民体育大会 冬季大会 駅伝競走	荒川河川敷道路、堀切水辺公園	参加者 168 名 審判員 81 名
3月3日(日)	第17回東京マラソン2024	東京マラソンコース	参加者 36,965 名 審判員 東陸900名 学生310名
3月10日(日)	第13回立川シティハーフマラソン2024	立川シティハーフマラソンコース	審判員305名
3月17日(日)	第27回2024板橋Cityマラソン	板橋Cityマラソンコース	参加者 8,602 名 審判員 306 名
3月23日(土)～24日(日)	第2回オール陸上競技記録会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,142名 審判員 248 名

- 2023年度及び2024年度開催競技会に関して競技会の企画及び開催準備を行った。
- 日本陸連に対し、東京都で開催される公認競技会の申請を行った。
 - ・ 2023年度公認申請について、下記のとおり追加・変更申請を15回行った。
4月17日、 4月25日、 5月17日、 6月17日、 7月17日
8月16日、 8月27日、 9月17日、10月11日、10月24日
10月31日、11月14日、12月16日、 1月17日、 2月21日
 - ・ 2024年度公認申請について、下記のとおり追加・変更申請を6回行った。
2月16日、 2月26日、 3月 3日、 3月16日、 3月28日
3月31日
- 2021年度より本協会の運営基準として、競技者及び競技役員を対象とした保険に加入することを競技会公認申請の条件として加え、2023年度においても主催加入団体に対し、保険加入を求めた。
- 競技部会を以下のとおり開催し、各競技会の準備報告や役割分担について協議を行った。

第1回競技部会	7月18日（火）	東京陸上競技協会会議室
第2回競技部会	8月22日（火）	東京陸上競技協会会議室
第3回競技部会	9月19日（火）	東京陸上競技協会会議室
第4回競技部会	10月17日（火）	東京陸上競技協会会議室
第5回競技部会	11月21日（火）	東京陸上競技協会会議室
第6回競技部会	12月27日（水）	ZOOM会議
第7回競技部会	3月25日（月）	第一勧業稲垣ビル2A会議室

○スタートリストの作成

東京陸協主催大会のスタートリストの作成を競技部と連携して行った。
その他、各地域陸協等のプログラム編成作業などを随時実施した。

○記録情報部会

新たなメンバーによる部会を7月24日に開催し、その後9月11日、11月21日、1月24日、3月6日に累計5回の部会を開催して、競技運営委員会の動向報告や記録情報部の課題検討などについて情報交換を行った。

○記録公認申請

東京陸協主催大会や各地域陸協等主催大会についての公認申請を実施した。

○その他

記録情報部管理HP（大会情報）と東京陸協競技大会情報（HP）との調整作業を競技運営委員会の指示により行った。

記録情報部管理HP（大会情報）は、随時適切な管理運用により、必要な情報を適時的確に提供を行うことができている。

○審判編成に関して

- ・メールによる審判委嘱方式も約3年が経過し、ほぼ定着してきたようで回答も迅速に行われるようになった。ただし、大会が重複しているため欠席回答が多く、編成に苦慮した。

また審判部署によっては、特定の範囲に委嘱が固定されていて、同じ審判員が何度も競技役員に入ることがあったので、広く委嘱する必要があると感じた。

○2023年審判講習会に関して

- ・今年の審判講習会は5回の大きな会場を使用し既得者・新規者講習を実施。また土曜日は2回東陸の会議室を使用し3部構成で既得者講習を実施した。夜の部は既得者に対して3日間東陸で実施した。新B取得講習参加者は116名であった。
- ・申し込みもメールで実施したが、パソコン技術に不慣れで申し込みをせずに当日来場する者もいた。今回は大島会場では実施しなかった。

○競技会における審判員の運用技術に関して

- ・競技中における審判員、競技者に対する暴言を行う例が2件ほど挙げられた。また、審判活動中に人物写真をSNSで発信する者もいた。審判技術以前のモラルに反する不適格な審判員がいて、注意・指導をする必要があった。
- ・11月に行われた「京王駅伝フェスティバル」で選手の誘導ミスが発生した。
- ・B級を中心とした若手育成にも今後努めていく必要があると感じた。また、各部署の研修や講習会、勉強会も実施していかなければならないと考えている。

○その他

- ・6月から下山理事長を中心に新執行部、また各部の人員も刷新されて活動が開始された。審判部では服装に関して「サングラスの着用」が認められた。また、夏季は5月～10月、冬季は11月～4月と期間を変更した。
- ・来年から全国競技運営責任者会議に出席する日本陸連専門委員会委員およびJTOは東陸審判講習会の受講を免除するが、講習会資料代等にあたる費用2,000円は徴収することを決定した。
- ・関東学連加盟校からの委嘱方法に関して、学連と競技運営委員会の関係者と事務局、審判部と今後話を進める方向である。

【審判部会】

第1回	7月	3日(月)
第2回	9月	7日(木)
第3回	11月	9日(木)
第4回	12月	13日(水)
第5回	1月	29日(月)
第6回	2月	14日(水)

※サングラスの着用について部会で審議し、競技運営委員会で承認された。

- また服装について夏季は5月～10月、冬季は11月～4月と期間を変更した。
- ※関東学連からの運営協力（審判編成）についての基本的な考え方、審判依頼の手順・費用などの内容の検討を行い、2024年度からの適用とした。
 - ※審判講習会の充実を図るための方策の検討を行った。
例えば、他県での競技会における工夫や参考になる事例を東京のJTOの方から報告会を実施した。
 - ※2月の部会では競技規則修改正の周知を審判部員に実施した。
 - ※審判講習会は大会場6会場（武蔵野市・青梅市・港区②・立正・岩倉）、東陸事務所で10回実施。大島で既得・新規講習会を実施した。
- 受講者内訳 【既得者1343名：新B級111名 計1454名

東京陸上競技協会第1回競技場管理部会&第1回サポーター会議

2023年7月25日(火)

1. 2023体制と事業計画
2. 2022年の活動状況
3. 競技運営委員会報告
4. 2024・2025年度技術役員の推
5. 競技場・マラソコースの認定申請の承認について
6. その他

東京陸上競技協会第2回競技場管理部会

2023年8月12日(火)

1. 競技運営委員会の報告
2. 2023年の新B級の指導状況活動状況
3. 競技場・長距離競走路の状況
4. MGC・レガシーハーフ・レガシー車いすについて
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第3回競技場管理部会

2023年11月16日(木)

1. 2024・2025年度技術役員の決定2
2. 競技場・マラソコースの認定申請の承認について
3. 競技場・長距離競走路の状況(11月10日現在)2
4. 審判講習会について
5. 競技運営委員会報告
6. 大会の反省、準備状況について
7. その他

東京陸上競技協会第4回競技場管理部会会&第2回サポーター会議

2024年1月12日(金)

1. 競技運営委員会の報告
2. 審判講習会の対応
3. 大井競技場、駒沢競技場について
4. 競技場・長距離競走路の状況
5. 大会の反省、準備状況について
6. 2023年の新B級の指導状況活動状況
7. その他

普及強化委員会の活動は、新型コロナウイルスの収束に伴いコロナ禍前の規模で活動を実施できている。

国体強化部はメイン事業である鹿児島特別国民体育大会に向けて、国体選考競技会、選考会議を経て選手29名を選考した。本大会までに2回の合宿を実施し大会に臨んだ。天皇杯では99.5点を獲得し第5位、皇后杯は47.5点を獲得し第8位という成果を収めた。

駅伝強化部(駅伝プロジェクト)の事業は、3年ぶりに夏季強化合宿を実施し、中高生が参加し強化を図った。新たな形として小学生ロングフェスティバルと共催で第38回東日本女子駅伝競走大会東京都代表選手選考会を実施した。東日本女子駅伝競走大会では、チーム力を発揮し優勝に輝いた。増渕選手、鈴木選手が区間賞を獲得した。その勢いのまま都道府県対抗駅伝に臨んだが、アクシデントもあり皇后杯女子駅伝は第12位。天皇杯男子駅伝は東京の中高生、出身選手で構成し、価値のある8位入賞となった。

普及育成部の事業については、全国小学生交流大会において優勝2種目(1つ大会新)、入賞2種目と過去にない好成績を収めた。

1 国体強化部

①国体強化事業

A) 実施事業

ア) 第1回競技力向上委員会

- ①4/20 ②都体協 ③第1回競技力向上委員会 ④2名
- ⑤鹿児島特別国体に関する連絡事項を確認した。変更点多数あり。

イ) 第86回東京選手権 選考作業

- ①4/22～23 ②国立 ③選考作業、成年出場意志確認 ④15名
- ⑤ランキングを参考に、主に成年種目の選手に対し、東京代表としての意志があるか確認、調書を書いてもらった。

ウ) 第1回 国体強化部会

- ①4/30 ②国立 ③選考作業、成年出場意志確認 ④9名
- ⑤鹿児島特別国体までのスケジュール確認と担当者の確認を行った。年末年始の合宿について、日程の調整を行った。

エ) 競技力向上ヒアリング

- ①5/24 ②都体協 ③競技力向上ヒアリング ④出席2名
- ⑤鹿児島特別国体での目標、活躍できる選手を報告。

オ) 国体予選 選考作業

- ①7/15 ②駒沢 ③選考作業、成年出場意志確認 ④20名
- ⑤少年の特別種目を中心に選考作業を行った。競技終了後、選手の意志確認と調書を作成した。

カ) 国体強化部・国体最終選考会議

- ①8/14 ②東陸事務局 ③国体選考会議 ④18名
- ⑤事前に国体部長の用意した資料委を元に普及強化委員長・委員で打ち合わせを行い、提案に沿って、選手の選考を行った。

キ) 鹿児島特別国体の国体局入力、都体協提出資料作成

- ①8/15, 16 ②東陸事務局 ③国体データ入力作業 ④普及強化委員ほか3名
⑤鹿児島国体局に送る資料の入力と、都体協への提出の書類の整理と確認。
- ク) 鹿児島特別国体スタッフミーティング (監督会議)
①8/31 ②都体協 ③鹿児島特別国体スタッフミーティング ④2名
⑤鹿児島国体に向けて、主にドーピングについて説明があった。
- ケ) 鹿児島特別国体最終エントリー (体協登録)
①8/29 ②都体協 ③鹿児島特別国体最終エントリー ④2名
⑤滞りなく順調に作業を終えることができた。
- コ) 鹿児島特別国体一次合宿・アンチドーピング講習会
①8/27～28 ②日本大学 ③鹿児島特別国体第一次合宿 ④34名
⑤少年種目選手を中心に第一次合宿を行った。練習以外に、アンチドーピング講習会、コンディショニングチェックを行った。大きな怪我等もなく、無事に終了することができた。
- サ) 鹿児島特別国体結団式
①9/16 ②都庁 ③鹿児島特別国体結団式 ④ 5名
- シ) 鹿児島特別国体二次合宿・コンディショニングチェック
①10/1 ②N T C ③鹿児島特別国体第二次合宿 ④32名
⑤国体前のコンディショニングチェックを中心に行った。成年女子800m北村選手が体調不良で辞退。ヒリアー選手に変更。その他の選手は大きな怪我等はなく、国体に出場できる状況であった。
- ス) 鹿児島国体
①10/ ②白波スタジアム ③鹿児島特別国体第二次合宿 ④選手29名
⑤選手29名、33種目に出場。天皇杯獲得得点120点と全種目の入賞を目標に掲げて臨んだ今大会だったが、天皇杯では99.5点を獲得し第5位、皇后杯は47.5点を獲得し第8位という成果を収めた。
- セ) 第3回 国体強化部会
①11/8 ②東陸事務局 ③国体ジュニア合宿・沖縄合宿選手選考 ④15名
⑤鹿児島国体の反省と、年末年始の合宿の選手選考、スタッフの確認を行なった。
- ソ) 鹿児島国体解団式
①11/18 ②都庁 ③鹿児島国体結団式 ④ 選手4名
⑤都庁において、東京都選手団の解団式を行なった。天皇杯、皇后杯優勝という結果であった。解団式後、2名が祝勝会にも参加した。
- タ) ジュニア強化事業全体合宿
①12/9, 10 ②ナショナルトレーニングセンター ③ジュニア強化事業合宿
④選手60名 スタッフ20名
⑤中高生の中で、将来有望な選手を集め、強化合宿を行なった。スタッフも日本代表やクラブチーム、実業団の指導者も集め、充実した内容となった。
- ツ) 競技力向上委員会
①12/20 ②都体協 ③予算について ④ 2名
⑤今年度の会計報告について説明を受けた。
- テ) 高体連強化合宿
①12/26, 27, 28 ②上柚木陸上競技場 ③各種目の強化合宿
④選手200名 スタッフ70名
⑤高校生で活躍が期待できる選手を集め強化合宿を行なった。

ト) 佐賀国スポ強化合宿 (沖縄)

- ①1/4~7 ②沖縄県 ③国スポ強化事業合宿 ④選手9名 スタッフ6名
⑤来年度の国スポ種目の選手を中心に、成年の部の選手を選考し、沖縄県で実施した。天候にも恵まれ、温暖な気候のもと、充実した練習ができた。

2 駅伝プロジェクト

A) 実施事業

ア) 各駅伝大会参加

a) 第38回東日本女子駅伝競走大会

- ①令和5年11月12日(日) ②福島市 ③スタッフ15名 選手14名 ④優勝
区間賞2名 第3区 鈴木美海[順天高校]・第9区 増渕佑香[名城大学]

b) 皇后盃第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

- ①令和6年 1月14日(日) ②京都市 ③スタッフ15名 選手14名 ④第12位

c) 天皇盃第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

- ①令和6年 1月21日(日) ②広島市 ③スタッフ14名 選手12名 ④第8位

- ・上記3大会「優勝」を目指して強化練習会及び合宿を実施し準備したが、結果はご覧の通りであった。今年度も、昨年度と同様に中学生・高校生の力強く、積極的なレース振りが発揮されたことは評価できるものであった。特に男子チームは、社会人・大学生も東京都出身で編成し入賞ができたことは、この駅伝プロジェクトの価値を証明し意義のあるものとなった。また、例年通りスタッフの献身的なサポートも十分なものであった。

イ) 駅伝プロジェクトレース

a) 第1回プロジェクトレース

- ①令和5年4月9日(日) ②大井 ③スタッフ14名 選手 男子16名、女子18名

b) 第2回プロジェクトレース

- ①令和5年10月1日(日) ②駒沢 ③スタッフ13名 選手 男子中学生12名
駒澤大学選手2名がペースメーカー

c) 第3回プロジェクトレース

- ①令和5年11月25日(土) ②上柚木 ③スタッフ18名 中学生男子25名女子18名
男子2名・女子2名の一般選手がペースメーカー

- ・今年度も各方面にご協力いただき、プロジェクトレース3回の実施に至った。ペースメーカー役の団体選手にご尽力いただき、好記録も生まれスピード練習にかわる有意義な取り組みができた。

ウ) 東日本女子駅伝競走大会東京都代表選手選考会

- ①令和5年10月1日(日) ②駒沢 ③スタッフ13名 女子中学3000m12名 女子高校4000m7名 ④今年度は、高校生1名がインターハイ決勝、中学生1名が全日中決勝進出しているため、選考レースにおいて、高校生は上位4名、中学生は上位2名を選考し、更に中学生1・2年生から最上位で先着した1名をプロジェクト選手として選考した。

エ) 3大駅伝に向けた強化練習・合宿

a) 夏季強化合宿

- ①令和5年8月21日(月)~24日(木) 3泊4日 ②長野県須坂市峰の原高原宿舍

男子チーム：ホワイトイーグル 女子チーム：ペンションケルン

③ 1日3回練習（峰の原クロスカントリーコース、菅平高原自然館周辺 他）

特別講習会実施 i アスレティック講習 講師：石郷崗旭氏（一般社団法人3C）

ii メンタルトレーニング講習 講師：小林玄樹氏（㈱ハイクラス）

④ スタッフ13名 男子：高校生10名 中学生8名 女子：高校生8名 中学生9名

⑤ 全日中大会と合宿日程が重なったため、中学生は全日中不参加者からの選抜となったが、高校生のインターハイ参加者と交流を図りながら良い練習が積めた。「意識付けをして育てる」という指導原点に立ち返ることができ、充実した4日間であった。

b) 冬季合宿

① 令和5年12月26日（火）～28日（木）3泊4日 ② 千葉県富津市 ナカヤマイン

③ 1日3回練習（富津公園、富津岬ロード、富津臨海陸上競技場 他）

④ スタッフ18名 男子：高校生9名 中学生4名 女子：高校生8名 中学生4名

c) 年始男子合宿

① 令和6年1月5日（金）～6日（土）1泊2日 ② 千葉県富津市 ナカヤマイン

③ 1日3回練習（富津公園、富津岬ロード）④ スタッフ11名 高校生9名 中学生8名

d) 女子練習会

① 令和6年1月6日（土）・7日（日）2日間 ② 第一生命グラウンド ③ 大会前調整練習 ④ スタッフ9名 高校生8名 中学生7名

e) 男子練習会

① 令和6年1月14日（日） ② 第一生命グラウンド ③ 大会前調整練習 ④ スタッフ5名 高校生9名 中学生8名

- ・ 年末年始は、全国男女駅伝大会直近のため、故障防止に努めつつ最大限の強化練習と調整練習を良い環境下で実施できた。また、次年度を見据えて、中学生・高校生・男女の1年生、2年生から強化選手を選抜し、エントリー選手と同様に「練習パートナー」として合宿・練習を行った。

オ) 結団式

a) 第38回東日本女子駅伝競走大会東京都代表団結団式

① 令和5年11月6日（月）18時～ ② 東京陸上競技協会事務所 ③ スタッフ・選手21名

b) 皇后盃第42回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会東京都代 並びに天皇盃第29回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会東京都代表 結団式

① 令和5年12月26日（火）17時半～ ② 千葉県富津市合宿宿舎「ナカヤマイン」

- ・ 一般（社会人・大学生）選手は、リモートあるいは、ビデオメッセージにて参加した。

カ) プロジェクト会議

a) 第1回駅伝プロジェクト会議

① 令和5年4月9日（日） ② 大井ふ頭中央海浜公園 ③ 年間スケジュール確認

④ スタッフ14名

b) 第2回駅伝プロジェクト会議

① 令和5年7月10日（月） ② 東京陸上競技協会会議室 ③ 夏季合宿確認、第二次強化選手選考、東日本女子駅伝東京都代表選手選考会開催の確認、第2回・3回プロ

ジェクトレース開催要項の確認 ④スタッフ 18 名

c) 第 3 回駅伝プロジェクト会議

- ①令和 5 年 10 月 1 日（日） ②駒沢陸上競技場会議室 ③第 38 回東日本女子駅伝東京都代表選手選考 ④スタッフ 13 名

d) 第 4 回駅伝プロジェクト会議

- ①令和 5 年 12 月 4 日（月） ②東京陸上競技協会会議室 ③第 29 回全国男子駅伝大会及び第 42 回全国女子駅伝大会東京都代表選手選考、年末年始合宿及び練習会の確認
④スタッフ 18 名及び、中体連高体連の強化委員長

e) 第 5 回駅伝プロジェクト会議

- ①令和 6 年 2 月 27 日（火） ②東京陸上競技協会会議室 ③令和 5 年度駅伝に関する反省、令和 6 年度年間強化スケジュールについて ④スタッフ 19 名

B) 中止事業

- ア) 6 月練習会 → スケジュール調整により中止
イ) 駅伝プロジェクトレース 9 月開催 → 10 月開催に変更

3 普及育成部

A) 実施事業

- ア) ①日清食品カップ” 小学生陸上競技交流大会東京都大会 代表選手選考
②7 月 29 日（日） ③駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
④代表選手選考会議 普及育成部 13 名
⑤個人種目 8 種目 8 名とリレー 1 チームを選考
出席の普及育成部全員が異議なく、各種目の優勝者を代表として選考した。

イ) ①日清食品カップ” 小学生陸上競技交流大会東京都代表選手結団式

- ②9 月 9 日（土） ③東京陸上競技協会会議室
④選手 13 名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長、事務局
普及育成部 12 名

- ⑤大会に向け各自の目標を確認し、参加者相互の交流を図った。

ウ) ①日清食品カップ” 全国小学生陸上競技交流大会

- ②9 月 16 日（土）～18 日（月） ③横浜・日産スタジアム
④選手 14 名、理事長、普及強化担当常務理事、普及強化委員長、普及強化副委員長、普及育成部 13 名、
⑤大会では 9 種目中 2 種目で優勝（大会新）、3 位 1 種目、多くの選手が自己ベストを更新するなど例年度以上の好成績を収めることができた。大会当日は、各種目で選手に普及育成部スタッフが付き、クラブの指導者と連絡を取りながらウォーミングアップなどを対応し、選手のパフォーマンスを上げるよう努めた。
選手の努力は勿論ではあるが、年間を通して強化練習会や中体連との合同練習会、合宿を実施、各クラブとの連絡調整などを行うなど、地道な取組を継続することで、今回の成果を挙げることができた。

エ) ①スタートコーチ養成講習会東京会場

- ②令和 5 年 6 月 25 日（日） ③あきる野市立御堂中学校
④指導者 4 名 下山良成氏 平山公紀氏 君野貴弘氏 今岡徹郎氏
スタッフ 6 名 TACC 指導スタッフ

- ⑤受講者 19名 (3名欠席)
- オ) ①スタートコーチ養成講習会東京会場②・公認指導者資格更新講習会
 ②令和5年8月12日(土) ③あきる野市立御堂中学校
 ④・スタートコーチ養成講習会
 指導者 4名 平山公紀氏 君野貴弘氏 今岡徹郎氏 田島直樹氏
 受講者 17名
 ・公認指導者資格更新講習会
 指導者 3名 下山良成氏 一瀬秀和氏 八幡賢司氏
 受講者 4名
 ・スタッフ 6名 サポートスタッフ 4名
 ⑤陸上競技の指導に関する基本的な知識・技能を身につけ、安全で効果的な活動を提供するため「JAAF 公認陸上競技スタートコーチ」を養成するとともに公認指導者資格更新講習会を開催することで、指導者の裾野を広げることができた。
- カ) ①第1回普及育成部会
 ②6/30(金) ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及育成スタッフ9名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長
 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。
 今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- キ) ①第2回普及育成部会
 ②9/1(金) ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及育成スタッフ10名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長
 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。
 今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- ク) ①第3回普及育成部会
 ②10/20(金) ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及育成スタッフ8名、普及強化委員長、普及強化副委員長
 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。
 今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- ケ) ①第4回普及育成部会
 ②12/8(金) ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及育成スタッフ13名、普及強化副委員長
 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- コ) ①東京都小学校教員指導者講習会
 ②令和5年11月5日(日) ③帝京科学大学千住キャンパスグラウンド
 ④普及育成部スタッフ5名(指導者)
 ⑤東京都内小学生教員に対し、陸上競技の基礎及び練習方法の指導を行なった。
- サ) ①第1回小学生陸上競技強化練習会
 ②令和5年11月26日(日) ③上柚木陸上競技場

- ④普及育成部スタッフ 12 名、参加者 64 名
- ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- シ) ①第 2 回小学生陸上競技強化練習会
 - ②令和 5 年 12 月 17 日（日） ③上柚木陸上競技場
 - ④普及育成部スタッフ 10 名、参加者 52 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ス) ①第 3 回小学生陸上競技強化練習会
 - ②令和 6 年 1 月 14 日（日） ③上柚木陸上競技場
 - ④普及育成部スタッフ 13 名、参加者 58 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- セ) ①第 4 回小学生陸上競技強化練習会
 - ②令和 6 年 2 月 11 日（日） ③上柚木陸上競技場
 - ④普及育成部スタッフ 13 名、参加者 60 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ソ) ①第 5 回小学生陸上競技強化練習会
 - ②令和 6 年 3 月 10 日（日） ③上柚木陸上競技場
 - ④普及育成部スタッフ 9 名、参加者 55 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- タ) ①東京都ジュニア強化第一次選抜合宿
 - ②令和 6 年 1 月 4 日（木）～6 日（土） ③九十九里浜
 - ④普及強化副委員長、普及育成部スタッフ 4 名、参加者 7 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、合宿を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- チ) ①東京都ジュニア強化第二次選抜合宿
 - ②令和 6 年 3 月 27 日（水）～29 日（金） ③富士北麓公園富士山の銘水スタジアム及び山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場
 - ④普及強化副委員長、普及育成部スタッフ 6 名、参加者 27 名
 - ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、合宿を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ツ) ①小学生陸上競技体験教室
 - ②令和 6 年 2 月 10 日（土） ③北区立飛鳥中学校校庭
 - ④普及強化委員長、普及強化副委員長、普及育成部スタッフ 11 名 参加者 45 名

指導者5名小南拓人氏、眞々田涼大氏、池田 海氏、金本昌樹氏、千田杜真寿氏
⑤都内の小学生を対象に、陸上競技の楽しさを体験させ、興味・関心を高め、今後の陸上競技の競技者人口の増加を図った。また、様々な種目にチャレンジすることにより、将来、専門的に競技を続ける種目をみつけるきっかけづくりの場を設けることができた。

4 ジュニア選手育成強化事業

A) 実施事業

ア) 東京都パフォーマンスサポート事業（メディカルチェック）

①5月28日 ②日本大学 ③スタッフ1名 選手13名

イ) 東京都パフォーマンスサポート事業（パフォーマンスサポート）

①6月16日～19日 ②JITリサイクルインスタジアム ③映像・動作分析

ウ) 東京都パフォーマンスサポート事業（パフォーマンスサポート）

①10月20日～21日 ②埼玉県スポーツ文化公園 ③映像・動作分析

エ) 東京都パフォーマンスサポート事業（コンディショニングサポート）

①11月19日 ②アローズラボ ③各種測定

オ) 東京都中体連強化合宿

①1月4～6日 ②九十九里浜 ③選手130名 スタッフ30名

カ) 東京都中体連強化合宿

①3月27～29日 ②山梨県富士北麓 ③選手130名 スタッフ30名

B) 中止事業 なし

5 オリンピック候補選手強化事業

A) 実施事業

○候補選手選考・決定

豊田 兼 選手 慶応大学 110mH

山越 理子 選手 早稲田大学 200m

大川寿美香 選手 早稲田大学 400mH

金本 昌樹 選手 早稲田大学 400mH

※いずれの選手も鹿児島特別国体東京都選手団に選出される。

ア) 国スポ強化合宿（沖縄）

①1/4～7 ②沖縄県 ③オリンピック等強化事業合宿 ④選手4名 スタッフ6名

⑤来年度の国スポ種目の選手を中心に、成年の部の選手を選考し、沖縄県で実施した。
天候にも恵まれ、温暖な気候のもと、充実した練習ができた。

6 U16日本選手権選手選考作業

A) 実施事業

ア) U16日本選手権最終予選会

①8月26日27日 ②駒沢オリンピック公園 ③U16日本選手権選手選考作業

④スタッフ 8名 ⑤U16日本選手権の代表選手の選考作業を実施した。

B) 中止事業

なし

7 みんなでつなごうリレーフェスティバル U16リレー大会の派遣選考

A) 実施事業

ア) U16リレー大会選手選考事業（予算立てなし）

- ① 8月27日 ② 駒沢オリンピック公園 ③ 4月1日よりU16日本選手権最終予選会までの結果にてU16リレー大会の派遣選考を行い、各校選手への連絡をした。

イ) U16リレー大会ユニホーム（ジャージ）発注

※代表選手に東京都代表ジャージを東京陸上競技協会が贈呈

ウ) 代表選手練習会（大会派遣）

- ① 9月17日 ② 国立競技場 ③ スタッフ4名 選手12名
④ 新宿区民大会にオープン参加し、国立競技場で実践形式の練習を実施した。

エ) 代表選手練習会

- ① 9月21日 ② 日本女子体育大学 ③ スタッフ4名 選手12名
④ バトンパス中心に練習。コンディショニングチェックも行った。

オ) U16リレー大会

- ① 10月7日8日 ② 国立競技場 ③ スタッフ4名 選手12名
④ 男子 予選 42 “01
女子 予選 47 “65 決勝 47” 26（第4位）

1 委員会の目的

- ① 東京の陸上競技を、発展させ、普及し、強化するために、資金を集める
- ② 日本陸上界に影響を及ぼす、画期的な企画を生み出す

2 委員会の目標 1億円の効果を生み出す

3 委員会の編成

- ① マーケティング委員会 内村京子氏(東陸事務局) 浅野円歌氏(葛飾区陸協)
稲垣誠司氏(ゴールドウィン)
- ② 企画委員会 大嶋康弘氏(日本大学) 川島史章氏(博報堂)
新田良太郎氏(TWOLAPS)

4 委員会の課題

- ① それぞれの置かれた立場の理解と徹底
- ② 現在と未来の東陸に、何が必要かを共有する

5 マーケティング担当会議

- ① 7月 4日(火) 19:15～19:45 オンライン
(1) 目標共有
(2) 思いの共有
- ② 8月 1日(火) 19:30～20:00 オンライン
委員からの提案共有
- ③ 9月 19日(火) 18:15～19:00 オンライン
(1) 委員からの提案共有
(2) 昨年度実施の施策を継続し、さらに良くしていくための方法を共有

6 企画担当会議

- ① 7月 5日(水) 19:15～20:15 オンライン
(1) 目標共有
(2) 思いの共有
- ② 8月 4日(金) 19:30～20:15 オンライン
委員からの提案共有
- ③ 9月 7日(木) 19:30～20:15 オンライン
(1) 世界陸上ブダペスト大会の情報共有
(2) 世界陸上東京大会への提案共有

7 活動

- ① 期 日 11月22日(水) 15:15～16:15
- ② 訪問先 ミズノ株式会社挨拶
- ③ 課題等 原材料の高騰により、衣類金額が高騰 特に別注品は多額
定番対応で、50%近く軽減できる可能性があり